

◇学校の教育目標 美しい心を持ち、自ら考え、たくましくやりぬく子

◇めざす学校 「夢と感動のある学校」～自慢できる自分・学級・学校づくり～

【児童の実態】

- 学習の流れを理解し、学び方にそって意欲的に取り組む児童が多く、知識や技能については定着している。
- 少人数やT.Tによる個に応じた支援が学習への抵抗感を少なくし、個人追究で自分の考えをほとんどの子がもつことができる。
- 全国学力・学習状況調査の結果からも基礎的・基本的な学習内容は定着してきているといえる。
- 条件に合わせて内容をまとめて書くことや理由を説明したりすることに苦手意識があり、自信をもって人に話すことができない。
- 自分のわからなさを自分からみんなに表出することに抵抗感がある子がいたり、それを表出できる雰囲気が弱かったりする。
- 聞いてほしい、認めてほしいのは教師であり、仲間に対する意識が弱い。

【めざす姿】

- ◇ 既習の内容をもとに、見通しをもって粘り強く考えることのできる子
- ◇ 自分から情報を集め、事象と関連づけて考えることができる子
- ◇ 考えの筋道を自分のノートにまとめることができ、そのことをみんなに伝えることのできる子
- ◇ 仲間との交流の中で自分の見方や考え方を広げたり、深めたりできる子
- ◇ 自ら自分の学習を振り返り、自分の伸びが実感できる子。
- ◇ 学年で身につけるべき学習内容を確実に身につけ分かる楽しさを実感できる子

研究主題 人とのかかわりの中で

自ら考え自分の言葉で表現できる子をめざして

～国語・算数・英語科での実践を通して～

【仮説】よりよい人間関係を基盤として、「付けたい力」及び指導の系統性、単位時間の役割を明確にした単元構想図を作成したり、児童が主体的かつ相互援助的に学び合う場を位置付け、児童に自己評価する力が身に付けば、自ら考え、自分の言葉で表現できる子が育つ。

研究内容（１） 単元を見通すための指導計画の工夫	研究内容（２） 単位時間を見通すための指導課程の工夫
<u>単元の指導方針を明確にするための単元構想図の作成</u> ・児童一人一人の実態把握 ・既習内容と今後発展していく学習内容との系統性 ・単元全体における単位時間の意味付け	<u>逆向き設計の授業づくり</u> ・本時の授業で児童に身に付けさせたい力（表現する姿）を子どもの具体的な姿で明らかにする。 ・その姿を具現するために、どんな活動を仕組むのか授業展開を考える。（①課題化の工夫 ②協同的な学びを進める交流活動の設定 ③定着状況を見届ける「評価問題」の工夫）
＜基盤＞わからなさを大切に、安心して話せる学級経営	

【学びを支える取組】

- ・学習技能の定着（聞く・話す・ノート指導）
- ・学習集団としての基礎・基本の定着

【検証の指標】

- ・児童の意識調査
- ・全国（６年）・県の学力状況調査（４・５年）